

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人理念に沿ったユニットビジョンをかかげているが、地域密着サービスを組み込んだ目標はかかげていません。	○	地域密着サービスを組み込んだ理念の見直しをしたい。
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を管理室、リビング、廊下などに設置し、いつも目に付くようにし、スタッフが意識しやすいようにしている。又、カンファレンスでプラン見直しをする時に理念を意識したプランニングをするように検討、討議している。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居者のホームでの様子、予定を「ちょうちょう便り」にのせ、家族へ発行している。地域とは町内会に入り、日々の生活の中で入居者への理解を頂けるよう、行事へお誘いしたり、商店・美容室等を利用し外出の機会を作っている。	○	町内会回覧版にのっている催し物にたくさん参加していく予定を組んでいます。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	1日2回スーパーへ買い物へ行き(入居者様と一緒に)、転院、ご近所と顔なじみの関係にある。美容室は近所の「しらとり」さんを利用。行事の時には参加の声掛けをしている。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りに参加している。事業所に近く保育園児が遊びにきてくれたり、他のGHとの交流もある。	○	福祉会館に通われている老人会の皆様と交流を図りたい。
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	要請があれば実習生の受け入れる用意がある。町内会などから要請があればキャラバンメイト100万人の研修も行える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価をスタッフ全員で行いサービズの質の確認向上に努めている。外部評価の結果はカンファレンスで報告し、改善に向けて全員で目標設定し取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>平成19年2月、7月に行っている。日常生活、行事活動の報告をし、包括支援センターの職員や家族の意見を聞く機会を設け、サービスにいかしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>札幌市南区管理者連絡会議に出席している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在対象者がいない。対象者が出た場合は支援体制を整えていく。</p>	○	今後対象者が出てくる可能性があるため、研修会があれば積極的に参加したい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p> <p>外部評価に参加し、参加後はカンファレンスで報告し、情報を共有出来る様にしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>実際に会って伝えている。特に利用料、医療連携体制について退所時の説明は詳しく説明して、一度契約書を持ち帰ってもらい内容を理解、納得してもらった上で同意を得ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の中で利用者の言動、表情から思いを感じ取れるよう努力し、利用者の立場に立った運営を心掛けている。利用者一人一人の変化はスタッフ全員で共有するようにカンファレンスで、話し合ったり、申し送り表を利用している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月管理者からお手紙の送付、二ヶ月に一回お便りを発行している。行事等の写真も家族へ送付している。おこずかいから支払いした物については、領収書・おこずかい帳と共に家族へ送付している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が行事に参加し、家族同士が交流、お話しができるような機会を作っている。家族、スタッフ間でも話しやすい機会や雰囲気作りをしたり、事業室からアンケートを送り、サービスに反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスでは、必ず擦った不からの(何についても良い)意見を述べる時間を作っている。必要時は個別面談を行い、要望、意見を話しやすい機会を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	急な病院受診やFAの都合のつかない受診への対応、外出、行事では利用者の安全確保ベースに合わせられるよう必要なスタッフ配置を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者、家族へ信頼が途切れないよう引継ぎを細かく行っている。異動時には手紙、お便りを利用したり、面会時には紹介を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>同グループでの研修会、外部での研修へはなるべく多くのスタッフに参加してもらえる様、勤務調整をしている。研修会お知らせの掲示をし、自主的に研修に参加出来る様になっている。研修内容がスタッフ全員で共用できるようにカンファレンスで報告している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市・区の連絡会へ参加し交流をもてるようにしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>疲労、ストレスに気を配り勤務中でも休憩できる場所、時間を確保している。又、勤務日数が続き仕事とプライベートが一緒になりがちにならない様月1回は、連休を作るように心がけている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得の為の学習、自主的な研修会への参加は優先的に行ってもらえるようにし、本人の意向、得意分野を活かせる場面を作っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>サービスの利用について相談があった場合は、必ず直接ご本人に会ってお話を聞き困っている事、不安な事を受け止める様努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでの苦労や不安なこと、困っていること、経緯について話してもらいやすいような雰囲気心をかけている。管理者一人で判断せず、事業室やスタッフとも話し合い皆でFaが求めているものを理解できるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要と思われる相談者には、他の事業所のサービスに連絡するなどの、柔軟な対応を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居間もない方へは様子を見て少しずつ把握し、スタッフでよく話合ったり、家族と情報交換したり、入居者と相談できる場合には了解をえて行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は人生の先輩であり、日常のコミュニケーションの中から遊びや生活の工夫などを教えてもらっている。出来ることには参加出来る機会を作り、感謝の気持ちを伝えることで自信が付き生活が活性化するように心がけている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と一緒に参加出来る行事を行ったり、日々の様子を面会時に口頭で伝えたり、変化のある時は電話でお知らせし、家族と利用者のパイプ役となり一緒に支えていく関係を作っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事にお誘いし、一緒に過ごしてもらえる機会を作っている。来訪時に日々の様子を伝えたり、楽しい雰囲気でも過ごして頂けるように配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の面会でご本人が喜ばれている事を伝えたり、行きつけのスーパー、美容室へ出かけ、なじみの関係が途切れないよう支援している。友人の来訪時には応接室、自室を利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ゲームやお手伝いを通して出来ない方への気配りや優しさを垣間見ることがある。コミュニケーションのとりにくい利用者はスタッフが間に入りパイプ役となって孤立する人が出来ないように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院、他事業所へ移動されても、利用者と一緒に遊びに行ったり、お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	フェイスシート、センター方式の生活歴のシートなどを利用し、その方の生活歴を知り、日々の関わり合いの中で、希望、意向を引き出したり把握できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、関係者から情報を集めたり、本人との日々の会話の中から生活歴、環境を知るよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	気配り目配りし、気づいたり感じたり変化があった時には、スタッフ同士で話し合ったり、申し送り表に記載している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3か月、半年ごとのモニタリングと評価を、月1回のカンファレンスでスタッフ全員で行い、利用者が自分らしく生活できるよう本人、家族の要望を聞きながら気づいたこと、対策がある時は内容を検討し、介護計画を作成している。	○	作成時に参加出来る利用者には参加してもらう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態変化が生じた時は、スタッフ間で情報交換や確認、話し合いを行い家族にもお知らせしてプランの検討、見直しをしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づいた事などは申し送り表に記入し、口頭で申し送りしたり、業務に入る前に必ず目を通してから仕事に入り、情報を共有できるようにしている。介護計画の見直し、評価はケア記録を基に行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	現在、デイサービス、ショートステイ等の支援は行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の家、商店とは日頃から挨拶をし緊急時には支援していただけるよう働きかけている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、他機関、外部ケアマネとの連携をとっていないが、必要時には対応していく。おむつサービスを利用したり、近隣の美容室が訪問してくれている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議へ出席していただき、支援に関する意見、情報を頂けるようになった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週一回の訪問看護、二週間に一回の往診で健康管理、必要時の他科受診は家族と協力し行っている。皮膚科往診(必要時)を利用している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	現在の主治医は内科医だが必要に応じて診断、治療を受けられる体制を整えていく。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護に週1回、日ごろの健康管理、医療面の相談をし、24時間体制で助言、必要時の対応を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会に多く行き、本人の様子を見たり、家族から状態の報告、情報交換が出来るように努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在該当者はいないが、本人、家族の意向のもと事業所が対応できる最大の支援と、家族が協力できる支援をよく話し合い対応していきたい。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の立場に立ってスタッフができる最大のケアを話し合い、必要時には主治医や訪問看護等と準備、検討していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所に移られた場合は、アセスメント、ケアプラン、支援注意点状況を情報交換し、今までの生活をできるだけ継続してもらえるように連携を心がけている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>申し送りは場所を変えて聞こえない配慮をしている。一人一人の対応は、声掛けの工夫、内容によっては場所を移して聞くなどの対応をしている。</p>	○	同居者やスタッフは慣れ合いになりすぎないように意識し、スタッフ同士でも声を掛け合っていきたい
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々の能力に合わせて、選択できる場面を作ったりいくつかの選択肢の中から一緒に選び納得して暮らせるように支援している。表現がうまくできない方へはサインや表現を見逃さないようスキンシップやジェスチャーで対応している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>疲れている時は自室で休んだり、応接間のソファで横になったり、買い物、散歩も天候やその人の言動に合わせて対応している。利用者の生活パターンを把握することで、希望に沿える様努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に美容室へ行ったり衣類を一緒に買い物している。毎日お化粧されている方には、化粧品が購入出来るように支援している。季節感がない方には季節に合った洋服が着られるように、洋服を一緒に選び、支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、盛り付けを一緒に行ったり、味付けも教えてもらいながら楽しんで行っている。視覚で楽しんでもらえるように色どりよく盛り付け、スタッフも交え会話をしながら食事をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	3時のおやつに楽しめるようにしている。誕生日など食べたい物を聞いて取り入れたり、手作りおやつは好評で一緒に作ったりして楽しんでいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンに応じて対抗し、トイレで排泄できるように対応している。排尿、便チェック表を利用し、水分摂取量を合わせて排尿の目安に使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	事前に意思確認を行い午後からのゆっくりした時間帯に見守りや介助で行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調、前夜の状態に応じ休息の声掛けや誘導を行っている。夜間ぐっすり休めるよう日中は体操、散歩などを行い、リズムが整うよう支援している。夜間寝つけない方はリビングでお話したりして、気持ちよく安心して寝つけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家族の手伝いは個々の得意な事を提供し参加してもらっている。レクリエーションはいくつかのゲームを用意し好きなものが選択できるようにしている。	○	ボランティアを活用することでいつもと違う空気を作ったり、習い事をしたりして楽しさを増やしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理している方へは、日常生活に必要な買い物をし、支払いをしてもらっている。通帳の記帳、払い戻しはご本人と一緒にを行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、花壇の手入れを行っている。週に1回はなるべく全員が外気浴を楽しんだり、公園などでゆっくり過ごせるように支援している。ゴミ捨ても一緒に行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事を計画し、お花見、音楽界、紅葉狩りなどに出かける機会を作っている。他ホームと合同で出かけることもあり、家族や同ホームの入居者以外にも交流を図っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室で電話を使用されている方が1名いる。利用者の希望に応じ、電話をかけて話しをしてもらったり、家族からの電話のとりつぎを行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問しやすいように配慮し、居室で過ごしたりリビングで皆さんと過ごしたり、応接室を用意し利用されている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルはスタッフ全員が目を通してしている。特に言葉で拘束してしまわないように、スタッフ同士声を掛け、意識してケアしている。	○	内・外部へ研修に参加し、再確認できる機会を作る。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	チャイムがあり、玄関入口に近づくと反応するが、リビングには必ずスタッフがおり、入居者の所在地確認に気を付けている。日中カギはかけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はいつも所在確認に気をつけ、自室で過ごされている方には時々訪室し、様子の把握、安全確認を行っている。日中、夜間の様子は口頭、申し送り表を利用している。夜間は定期的に見回りを行い、安全確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	転倒の危険のある利用者(視力低下、ふらつき、注意力の低下)には、一人一人の状態に応じ、危険となる物を道筋に置かないようにしている。薬品類、包丁などの刃物は保管場所に簡易のカギをつけている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	年に一度の火災訓練の実施。事故報告書、ヒヤリハットを利用し、同じ事故を繰り返さない為の検討、予測できるケアを考え事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全てのスタッフが応急手当の講習に参加している。(年に1回) 日中、夜間の緊急対応時についても、カンファレンスで確認し合い、全員が対応出来る様にしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に1回、避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の場所の確認、火災報知器使用方法の確認を行っている。	○	町内会での防災訓練にも参加したい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	誤えん、転倒など実際に見てもらふ事の出来る場面は、見て確認してもらい、リスクが少なく生活出来る様にアイデアを提供したり、スタッフが考えた対応策を話したりして、一緒に考えたり対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝、夕にバイタルチェックを行っている。小さな変化も見逃さない様に気配りし、変化がある時はスタッフで話し合ったり、訪問看護へ相談し、内容は申し送り情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬はスタッフ管理し、内服確認をしている。各自の処方箋はカルテに保管し、内容を確認している。処方内容に変更がある時には口頭やノートで申し送りをしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎朝牛乳を飲み、週3回発芽米を食べたり、水分補給にヤクルトを利用したり、繊維質の物を多く取った入り、水分を多く取れるよう工夫している。朝の体操など、体を動かす機会も作っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口の中の汚れ、臭いの気になる方へは毎食後のうがい、歯磨きを実施している。日中の休憩前にはうがいをし、誤えん、不快感も予防している。就寝時はポリデントにて洗浄を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量が少ない方は、摂取量のチェックを行い、栄養不足になりがちな方は、補助食品を利用している。糖尿病で、カロリー制限のある方へは料を調節している。	○	糖尿病の方の摂取量、カロリー計算が難しい。病気に合わせた食事内容になるように、栄養士の専門的アドバイスを受けたい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は入居者、スタッフ全員が受けており、外出時は必ずうがい、手洗いをしている。感染マニュアルに基づいて調理用具、寝具の共有部は1日2回の塩素消毒を行い、排泄後、食事前には手洗いを徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は毎回塩素消毒を行っている。食洗機を使い、食器類は高温消毒している。1日2回の買い物で新鮮な食材を利用し使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム外壁には絵がペイントされており、親しみやすくなっている。プランターや花壇に花を植え、通りがかりの人も楽しまれているようです。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間の椅子には室内の色合いにあった座布団を背もたれにも利用し、ゆっくりと過ごしている。レクリエーション、食事中はテレビを消し、雰囲気合った音楽をかけたり季節に応じた壁飾りや装飾品を飾り、季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に椅子とテーブルを置き、くつろげるスペースを作っている。応接室には長いソファを用意し、横になったり入居者同士並んで座り、会話を楽しめるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談したり、本人の好みや愛用していた馴染みの物を持ち込み使用している。写真などを飾り、安心感のある居室になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	気温に応じて室温調整したり、掃除中や、体操中にあわせて換気を行っている。温度、湿度計を置き、温度、湿度に気をつけ加湿器を使用したり、ぬれタオルを居室に干している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、階段には手すりがあり、使用することで1人で部屋まで行けたり、見守りで歩行できるなど自立に役立っている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来ることと、出来ないことを見極め「どうしたらできるか」をスタッフ間で話し合い、対応の仕方や環境の整え方を工夫している。状態の変化で新たな混乱や失敗が見られたときは都度話し合い対応を考えている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先に花壇があり、外へ出ても家の中からも楽しむことができ、苗植え、草取りも一緒に行っている。ベンチに座りながら日向ぼっこをしたり、植木鉢を見たり、歌を歌ったり、おやつを食べたり、涼んだりして外気浴を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>② 表現できない利用者の思いを感じられるように努力しているが、その思いに近付いているかはわからない。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>① レクリエーション、食事時間も含めゆったりと過ごせるよう心がけている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 1人1人の生活リズムを把握し、その人に合わせた生活が出来るように支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 家事作業レクリエーションに参加する事や、たわいのない会話の中から生き生きした表情や姿が見られるように支援している。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>③ 天候等により、好きな時に行けないことがある。しかし、出来る限りその方の体力に合わせて計画している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 近く医療機関と連携が取れているためいつでも対応が出来る。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 本人の心の内を理解しつつ、不安がないよう働きかけ安心していただけるよう努力している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>② スタッフは要望など、どんな小さな事でも聞く姿勢を持っているが、なかなか言い出せないご家族に対しても言いやすい雰囲気を作っていきたい。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>③ ボランティアなどに気軽に出入りできるよう雰囲気作りを心掛けていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ③ 今後の課題として地域と深く関わりを持つ為に婦人会の方々との親交を深めていきたい。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ① カンファレンスでは活発な意見交換がある。業務中も笑顔、声が絶えず見られている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ② 自分の意志を表現しにくい入居者もいるが、入居者には笑顔や笑い声が多く見られている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ② ご家族様の本当の心の内、要望をもっと引き出していける様に努力したい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) スタッフ間の信頼関係、連携がよく、とても雰囲気の良いため、ホーム内の空気が穏やかで、楽しい感じが出てると思います。利用者一人一人が安心して、楽しめていただけるように、スタッフ同士声をかけあったり、意見交換し、ケアの質向上に向け取り組んでいます。環境面では、バス停、スーパーマーケット、福祉会館、病院など交通機関を利用しなくても生活できる、町内密着型を目指していきたいです。